

# 愛知サークル4月例会報告

2019年4月27日（土）豊川市一宮生涯学習会館 参加：6名

コンセプト：点検

## ① 点検Ⅰ「学習集団づくり」

会員の学級の追求場面映像をもとに「学習集団づくり」の点検を行い、課題を見つけて解決策を検討予定だったが、課題の映像を持参した会員が一人だけだった。結果、一人の会員の映像で学ばせてもらった。

- ・「指名されて子どもが立つ」「発表している友達を見ていない」など、前担任の指導された姿のままの子ども。それが、見えているか。いないか。どうしたいか。したくないか。それを、戦略的に流すのか、流さないのかが、その場で問われるということが、映像があると分かった。教師に意思があれば、教師の語りでそれほどエネルギーを使わなくても思いを伝えることができることだと学んだ。
- ・子どもが自分から聞くようにさせるには、「教材の中身」と「勉強を自身に課す力」で、教師は、聞きたくなるような教材を用意することと、少し無理をし続けることの気持ちよさを実感させることではないかと思った。「まずは、感動。後に技術がついてくる」そして、普段から本物に触れ教師の人間性を磨くことが大切だと再確認した。

## ② 点検Ⅱ「表現の授業」

<音読> 「すいせんのラッパ」「たけのこ ぐん」「あたしの あ」

- ・表現の邪魔をするものを教師は取り除いてやる。  
恥ずかしい病・本見ちゃう病・声小さい病・・・
- ・内容のイメージをもたせる。
- ・子どもが、自分から表現を始めると、表情が変わることが映像から見て取れた。映像を見取る力が教師には必要で、指導前と後を並べて視聴することを繰り返し、その訓練となった。
- ・教師が「棒読み」と「表現読み」の両方が子どもに提示できる必要がある。そのため、急遽、音読の演習を行った。できていないと見たら、止めて指導する。「一点突破、全面展開」

<歌唱> 「春の小川」

<体育> 「柔軟運動」

<描画> 「かわいい小犬」「レース編み」「潮干祭」

- ・どの表現にも共通して言えることは、できていないときは「ストップ」をかけること。そして、指導したポイントができているか、ペアなどをつくって隣同士で点検する。特に、体育は命に係わるので、場の安全の確保は必須。